



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成29年11月20日 第845号「週刊五十嵐レポート」

飲食業は製造業

先週号(第844号)で幼児活動研究会の見学で「環境整備」のことを採りあげた。そのレポートを見た飲食業A社の話。

A社は5年前から「環境整備」を始業前15分間行っている。レベルの高いお店は、バックヤードにモノが少なく、やるべきことが明確に決まっている。あれもこれもとあるモノをまず、整理して要らないモノは捨てる。要るモノを明示する。ここでは、「定位置・定物(品)・定量」(3定)管理。

「定位置」とは、最も生産効率の上がる場所。

「定物(品)」とは、決められた場所以外に置かない。

「定量」とは、欠品を起こさない最小の量。

3定は、決められた場所に決められた量だけ配置することで、最も使いやすく、戻しやすく、管理しやすいこと。誰が見てもわかるようになっている。

探す手間がない。つまり時間短縮に繋がる。「時は金なり」とも言うが、経営では「時は経費(コスト)」になる。「一步、一秒、一円」という言葉もある。一步歩くのに一秒かかり、1円のロスになる。これがカイゼンの原点になり、業務作業の時間短縮の工夫に繋がる。

俺がいないと回らない組織をなくす。ブラックボックスを作らない、誰でもできる仕組みを作り、組織力を高めていく。よくあるのは、特定の人に仕事が集中して、助け合いができていない。そのために、技術の見える化と作業の標準化を図る。まるで製造業のような話。飲食業も素材から加工して製品にしていく過程であり、正に製造業である。粗利益の生まない作業を極力減らすことが利益向上になる。

A社にも良い店舗と悪い店舗に分類できる。悪い店舗の共通点は、バックヤードが汚い、そしてモノが多いということ。定期的にトップと他店の店長が環境整備の点検をしている。自社の基準となるレベルを共有する。カイゼンに終わりは無い。日々学習。

ちょっと
気になる出来事

11月18日(土)日経新聞夕刊コラム「プロムナード」は「勉強と学習」。勉強と学習には違いがあることが書かれてあった。

三省堂の新明解国語辞典によると

「勉強」とは、「知識や見識を深めたり特定の資格を取得したりする為に(中略)能力や技術を身につけること」。

「学習」とは、「繰り返しながら(段階的に)基礎知識を学ぶこと」。

著者は、「学習なくして勉強が身につくことはない」と言っている。

「知識は量より質と言うが、それは一定の量を越えた先の話である」。

「加齢によって記憶力が低下するという通説には誤りがあるという記事。学習さえすれば、いくつになっても勉強は身につく」。

勉強と学習の違いがあるのは知らなかった。学習の先に勉強があるらしい。繰り返し行うのが学習。加齢に関係ないというのはうれしい。



一口メモ
知識

天才の創造性はいらない

未来において何かを起こすには、特に創造性は必要ない。必要なものは、天才の業ではなく仕事である。ある程度は誰でもできることである。想像力に富むビジョンのほうが、成功の確率が高いわけではない。平凡なビジョンが、しばしば成功する。才能ではなく、勇気だった。

未来において何かを起こすには、進んで新しいことを行わなければならない。「今日とはまったく違う何が起こることを望むか」を進んで問わなければならない。「これこそ、事業の未来として起こるべきことだ。それを起こすために働こう」と言わなければならない。

イノベーションの議論において、創造性なるものは、問題の鍵ではない。欠落しているのは、製品を超えて構想することである。製品やプロセスは、ビジョンを実現するための道具に過ぎない。

最後に、全人格的な献身が必要。「ビジョンを心から信じているか。本当に実現したいか」「本当にその仕事をしたいか」である。

P.F.ドラッカー「チェンジ・リーダーの条件」より

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日 午前10時～12時

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週水曜日 午前10時～12時

「戦略社長塾東京」銀座校、五反田校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

